

Requested document:	JP7285581 click here to view the pdf document
---------------------	---

PACKAGING BAG FOR CUSHIONING

Patent Number: JP7285581
Publication date: 1995-10-31
Inventor(s): KOYANAGI YOSHITOMO
Applicant(s): KASHIWABARA SEITAI:KK
Requested Patent: ☐ [JP7285581](#)
Application Number: JP19940095625 19940408
Priority Number(s):
IPC Classification: B65D81/07
EC Classification:
Equivalents: JP2626879B2

Abstract

PURPOSE: To obtain a packaging bag for cushioning, whose bag bodies can be stacked on one another even in the case where air is confined in each bag body, on which a sign and the like can be marked and which holds a cushioning function even in the case where a part of the bag bodies is broken.

CONSTITUTION: A packaging bag for cushioning comprises an air feed tube 1 made of plastic film, having an air feed port 5 at one end of the tube 1, and a bag main body for sealing, communicating with one side edge of the feed tube 1. Divided bags 3 for sealing are provided by bonding the main body at a plurality of places in a direction in which the side edge of the feed tube 1 is crossed. The interior of each divided bag 3 for sealing is made possible to communicate with the interior of the feed tube 1 through a check valve 4, and air fed into the feed tube 1 is introduced inside each divided bag 3 for sealing through each check valve 4 before sealing each bag 3. A marginal width part 8 is provided in each divided bag 3 by forming the length of a width on one face other face side therein, and the longer than that of a width on the other face side therein, and the face on the side having the marginal width part 8 of a packaging material for cushioning is turned inside to fold each divided bag 3 for sealing, thus bonding both the side edges together to constitute a bag body P having an insertion-withdrawable port 9 and using the air feed tube 1 as lid pieces 1a.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-285581

(43) 公開日 平成7年(1995)10月31日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 81/07

図別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 5 D 81/10

B

審査請求 有 請求項の数 4 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平6-95625

(22) 出願日 平成6年(1994)4月8日

(71) 出願人 000153683

株式会社柏原製袋

大阪府柏原市太平寺1丁目13-5

(72) 発明者 小柳 美幸

大阪府柏原市太平寺1丁目13-5 株式会
社柏原製袋内

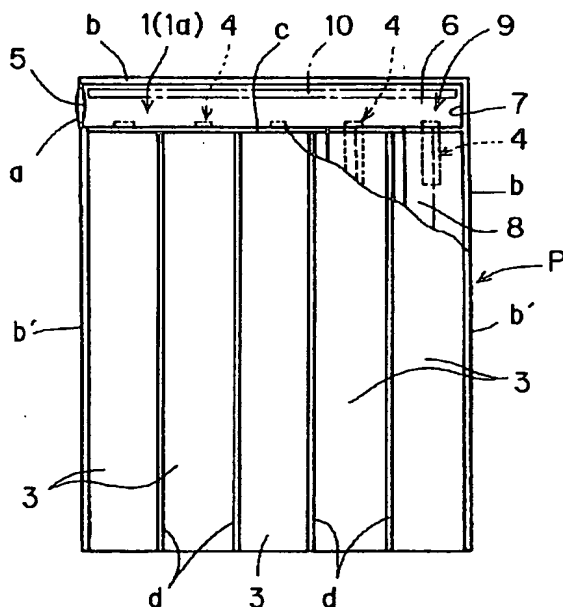
(74) 代理人 弁理士 岩永 方之

(54) 【発明の名称】 緩衝用包装袋

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 袋体に空気を封入しても、積み重ねを行ない得ると共に、記号等を記入でき、袋体の1部が破損しても緩衝機能を保持できる緩衝用包装袋を提供する。

【構成】 一端に空気の供給口5を備えたプラスチックフィルム製の空気の供給管1と、供給管1の側縁に連設した密封用袋本体とから成り、本体を、供給管1の側縁を横切る方向に複数個所で接着して空気の区画密封用袋3を形成する。各区画密封用袋3の内部と供給管1の内部を逆止弁4により連通可能にして、供給管内1に供給された空気を、各逆止弁4を介して各区画密封用袋3に導入密封する。区画密封用袋3内の片面側の巾長を他面側の巾よりも長く形成して余裕巾部8を設け、緩衝用包装材Mを、余裕巾部8を備えた側の面を内側にして区画密封用袋3を折り曲げ、両側縁を接着して空気供給管1を蓋片1aとする挿脱口9を備えた袋体Pを構成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 一端に空気供給口を備えたプラスチックフィルム製の扁平な空気供給管と、該供給管の側縁に連設したプラスチックフィルム製の扁平袋状の空気の密封用袋本体とから成り、該本体を、上記供給管の側縁を横切る方向に複数個所で接着区画して複数の独立した空気の区画密封用袋を形設すると共に、該各区画密封用袋の内部と上記空気の供給管の内部をプラスチックフィルム製の扁平な逆止弁により各別に連通可能に構成して、該供給管内に供給された空気を、該各逆止弁を介して各区画密封用袋内に各別に導入密封するように構成した包装用緩衝材において、各区画密封用袋内の片面側の巾長を他面側の巾長よりも夫々長く形成して余裕巾部を設け、該面を他面よりも広巾に形成した包装用緩衝材を構成し、この緩衝用包装材を、余裕巾部を備えた側の面を内側にして各区画密封用袋を二つ折りにする方向に半分に折り曲げ、その両側縁のみを接着して上記扁平な空気供給管を蓋片とする物品の押脱口を備えた袋体を構成したことを特徴とする緩衝用包装袋。

【請求項2】 袋体内部にプラスチックフィルム製の内袋が付加装設されている請求項1に記載の緩衝用包装袋。

【請求項3】 袋体の外面にハトロン紙等の可筆記性の被覆材が被覆されている請求項1または2に記載の緩衝用包装袋。

【請求項4】 扁平な空気供給管から成る蓋片の内表面に接着剤層が設けられている請求項1、2及び3のいずれか一つに記載の緩衝用包装袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、緩衝用包装袋に関し、さらに詳しくは、緩衝用の複数の空気密封用袋を備えて成るプラスチックフィルム製の緩衝用包装袋の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、この種の緩衝用包装袋としては数多くのものが提案されており、例えば、実開平1-161475号公報に開示されているように、「逆止弁を備えた空気の給排口部と、該給排口部と連通させた状態で対設形成した空気の充填収容部と、該両空気の充填収容部の間に形成した押脱口を有する物品の収納部とから成るプラスチックフィルム製の緩衝用包装材において、該両空気の充填収容部を上記押脱口の辺縁に沿う方向に所要の間隔を保って複数個所で各別に線状に接着したことを特徴とする緩衝用包装材」が知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】然るに、上記緩衝用包装材の場合は、空気を充填封入した該包装材が1個所でも破れると、封入空気の全部が放出して緩衝機能を喪失する問題があるばかりでなく、空気を充填封入した際

に、包装材の内面のみでなく外面にも複数条の凹凸部が形成されるため、この包装材を用いて物品を包装した複数の包装体を積み重ねた際の安定性が悪く、荷崩れを生じ易い問題があると共に、包装体の外面に必要な文字、図形、記号等を記入表示し難い問題があり、且つ物品の押脱口には蓋片等の蓋体が設けられていないので、収容物が押脱口から逸出し易い問題がある。

【0004】本発明は、上記の問題を解決することを課題として研究開発されたもので、袋体内に空気を充填封入しても、袋体の外面には殆ど凹凸部が形成されることなく、したがって複数の包装体の積み重ねを安全確実に行ない得ると共に、包装体の外面に必要な文字、図形、記号等を容易確実に記入表示でき、且つ被包装物が押脱口から逸出するのを確実に防止し得ると共に、充填封入した空気により膨満した袋体の1部が破損しても十分な緩衝機能を保持できる等の特長を備えた緩衝用包装袋を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決し、その目的を達成する手段として、本発明は、一端に空気供給口を備えたプラスチックフィルム製の扁平な空気供給管と、該供給管の側縁に連設したプラスチックフィルム製の扁平袋状の空気の密封用袋本体とから成り、該本体を、上記供給管の側縁を横切る方向に複数個所で接着区画して複数の独立した空気の区画密封用袋を形設すると共に、該各区画密封用袋の内部と上記空気の供給管の内部をプラスチックフィルム製の扁平な逆止弁により各別に連通可能に構成して、該供給管内に供給された空気を、該各逆止弁を介して各区画密封用袋内に各別に導入密封するように構成した包装用緩衝材において、各区画密封用袋の片面側の巾長を他面側の巾長よりも夫々長く形成して余裕巾部を設け、該面を他面よりも広巾に形成した包装用緩衝材を構成し、この緩衝用包装材を、余裕巾部を備えた側の面を内側にして各区画密封用袋を二つ折りにする方向に半分に折り曲げ、その両側縁のみを接着して上記扁平な空気供給管を蓋片とする物品の押脱口を備えた袋体を構成したことを特徴とする緩衝用包装袋を提供するものである。

【0006】また、本発明は、上記のように構成した緩衝用包装袋において、袋体内部にプラスチックフィルム製の内袋が付加装設されている緩衝用包装袋、及び袋体の外面にハトロン紙等の可筆記性の被覆材が被覆されている緩衝用包装袋、並びに扁平な空気供給管から成る蓋片の内表面に接着剤層が設けられている緩衝用包装袋を夫々提供するものである。

【0007】

【作用】本発明に係る緩衝用包装袋は、上記のように構成されているので、その扁平な供給管に供給された空気が逆止弁を介して各区画密封用袋内に充填されると、図2、図3及び図6～図8に示すように、袋体は余裕部が

設けられた内面側に膨出して、その外面側には殆ど膨出しないので、外面が平らな包装体が形成される。

【0008】上記のように、袋体の内面側が余裕巾部により膨出され、外面側は殆ど膨出变形されない結果、袋体の見掛け広さ乃至大きさは殆ど変わらない作用があると共に、扁平な空気の供給管を物品の押脱口の蓋片として使用することにより、被収容物が押脱口から逸出するのを防止できる作用がある。

【0009】また、各区画密封用袋は逆止弁を介して各別に空気を充填封入されるように構成されているので、或る区画密封用袋が破損して封入空気が洩出しても、他の区画密封用袋には全く影響を及ぼすことがないので、緩衝効果を失うことがない公知の作用がある。

【0010】

【実施例】以下に、本発明の実施例を添付図面に基づいて説明すれば、本発明に係る緩衝用包装袋は、次のように構成された包装用緩衝材Mを所定の方向に二つ折りに折り曲げ、その相対向する両側縁のみを接着して成る袋体Pで構成されている。

【0011】而して、上記包装用緩衝材Mは、図1～図3に示すように、同巾であるが、やゝ肉厚の長方形の熱可塑性プラスチックフィルムF₁と該フィルムF₁よりも長く且つ若干肉薄の長方形の熱可塑性プラスチックフィルムF₂を、それぞれの四辺を合致させて重ね合わせ、所要箇所を加熱接着して形成した扁平な空気の供給管1と、該供給管1の空気の供給方向（長手方向）に沿った少なくとも一側縁に連設した扁平袋状の空気の密封用袋本体2と、該本体2を、上記供給管1の側縁を横切る方向に区画して形成した多数の独立した空気の区画密封用袋3と、該各区画密封用袋3の連設辺縁において各

【0012】また、上記空気の供給管1及び空気の密封用袋本体2は、前記の態様で重ね合わせた2枚の熱可塑性プラスチックフィルムF₁、F₂を、その短辺側の一端部に狭巾の無接着部aを残存させた状態で四辺縁を加熱接着bすると共に、上記無接着部aの内側端部から長手方向に沿って全長に亘り加熱接着cすることにより、該加熱接着部cを境として、その両側に区画形成されており、該供給管1及び密封用袋本体2を形成している長い方のプラスチックフィルムF₂側の面は充分な余裕巾を備えている。

【0013】したがって、上記空気の供給管1は、上記無接着部aから成る空気の供給口5と、扁平で細長い空気の流路6と、該流路6の奥端部に上記加熱接着部bによって形成された閉塞部7を備えている。

【0014】また、上記空気の密封用袋本体2は、前記したように供給管1の長手側縁を直交状に横切る方向に、対向する加熱接着部b及びc間を結んで複数箇所

の独立した空気の区画密封用袋3を形成して構成されているが、この各区画密封用袋3のプラスチックフィルムF₂側の面には、前記した充分な余裕巾を利用して長さLの約2倍の長さの余裕巾部8が夫々設けてあり、その分だけ各区画密封用袋3のプラスチックフィルムF₂側の面よりも広巾に構成されている。

【0015】更に、上記逆止弁4は、プラスチックフィルムにより形成した公知の扁平管状体で構成されており、上記の空気の供給管1、空気の密封用袋本体2及び空気の区画密封用袋3の加熱接着手段による形成時に、前記加熱接着部cを施す際に各空気の区画密封用袋3内に挿設され、各空気の区画密封用袋3内と供給管1内を該各逆止弁4のみを介して連通可能に構成してあり、このようにして包装用緩衝材Mを構成したものである。

【0016】次に、上記のように構成された包装用緩衝材Mを、余裕巾部8を備えた側の面を内側にして各区画密封用袋3を二つ折りにする方向、即ち、図1のF-Fに沿って半分に折り曲げ、その両側縁の加熱接着部b、bのみを加熱接着b'、b'することにより、図6及び図7に示すように、上記扁平な空気の供給管1を蓋片1aとする物品の押脱口9及び物品の収容部9aを備えた袋体Pを形成して緩衝用包装袋を構成したものであり、同図において、10は蓋片1aの内表面に設けた接着剤層、図7における符号11は該接着剤層10の表面に貼着した離形紙を夫々示している。

【0017】以下に、上記のように構成された実施例に基づいて、その使用状態を作用、効果と共に説明すれば、物品の押脱口9から袋体Pの物品の収容部9a内に要緩衝物品（図示せず）を収容し、空気の供給口5から供給管1内に空気を供給すると、図6及び図7に矢印で示すように、空気は流路6各逆止弁4を経て各区画密封用袋3内に導入され、各区画密封用袋3を膨満して物品を緩衝的に抱持する。

【0018】その際に、各区画密封用袋3の、プラスチックフィルムF₂で形成された内面側には余裕巾部8が夫々設けてあって、外面側よりも広巾に構成されているので、図3に示すように、空気を充填封入した際に、各区画密封用袋3は内面側の広巾な面が主に膨満し、狭巾な外面側は殆んど膨満することがないので、袋体Pの縦、横の長さは殆んど短縮されず、而も表面が略平らに形成されることと相俟って所定の大きさの段ボール箱等への梱包を計画どおり確実容易に且つ整然と行ない得る利点があり、この効果は各区画密封用袋3の狭巾な他面側を肉厚なプラスチックフィルムF₁で構成したことによって一層向上される。

【0019】また、上記のように空気を充填封入した後に、扁平な空気の供給管1から成る蓋片1aの内表面に貼着した離形紙11を剥離して該蓋片1aを折り曲げ、接着剤層10により蓋片1を袋体の表面に接着して物品の押脱口9を覆閉することにより、収容部9a内の物品

が押脱口 9 から逸出するのを確実に防止できる利点があり、このように蓋片 1 a で押脱口 9 を確実に覆閉した場合、この包装体を段ボール箱等により梱包しなくても、そのまゝの状態でも保管したり、郵送できる利点がある。

【0020】次に、図 9 及び図 10 は本発明の他の実施例を略示しており、上記実施例と相違しているのは、袋体 P の外面にハトロン紙等の可筆記性の被覆材 13 を被覆した点のみであって、その他の構成は全く同一であるから、包装用緩衝材 M の図示を省略すると共に、上記実施例と同一部分には同一符号を付してある。

【0021】この実施例にしたがえば、上記実施例の作用、効果に加えて、可筆記性被覆材 13 を利用して包装体の外面に必要な文字、図形、記号等を容易確実に表記できるので、該包装体を直接に小包みとして郵送できる等の利点があると共に、緩衝用包装袋としての強度を増大できる利点がある。なお、可筆記性被覆材 13 として加熱接着性を有するプラスチック繊維製の不織布を使用すれば、上記の強度増大効果を一層向上し得ると共に、包装用緩衝材 M の製作時に、同時に加熱接着して被覆し得て能率的に量産できる利点がある。

【0022】さらに、図 11 及び図 12 は本発明の今一つの他の実施例を略示しており、最初に述べた実施例と相違しているのは、袋体 P の内部に加熱接着性を有するプラスチックフィルム製の一重袋から成る内袋 12 を一体的に付加装設した点のみであって、その他の構成は全く同一であるから、包装用緩衝材 M の図示を省略すると共に、上記実施例と同一部分には同一符号を付してある。

【0023】上記の内袋 12 を袋体 P の内部に一体的に付加装設するには、包装用緩衝材 M の作製時に、余裕巾部 8 を備えた側の表面に、上辺の加熱接着部 e 以外の三辺の加熱接着部 b、b、b 及び加熱接着部 c に渡って加熱接着性を有するプラスチックフィルムを当設し、これらの四辺を該部に加熱接着して既述した方法にしたがって袋体 P を形成すればよい。

【0024】この実施例にしたがえば、最初に述べた実施例の作用、効果に加えて、各区画密封用袋 3 内に空気を充填封入した際に、空気で膨満した各区画密封用袋 3、3 の間の谷間に空間部 14 が形成されて谷間が解消されるので、袋体 P における物品の収容部 9 a の内面が平らになって物品の押脱を円滑に行ない得ると共に、緩衝効果を一層向上できる利点がある。

【0025】以上、本発明の主要な実施例について説明したが、本発明は、これらの実施例に限定されるものではなく、発明の目的を達成でき、且つ発明の要旨を逸脱しない範囲内において種々の設計変更が可能である。

【0026】

【発明の効果】本発明に係る緩衝用包装袋は、前記のように構成されていて、各区画密封用袋内に空気を充填封

入した際に、充填封入空気による膨満部は袋体の内面側に形成されて外面側は略平らな形態を保持するので、物品を収容した袋装体の見掛け広さ乃至大きさは殆ど変わることがなく、したがって梱包時における梱包箱の大きさを特定できる利点があると共に、梱包箱への包装体の押脱作業を円滑、容易に行なうことができ、且つ包装体の状態での積み重ねを整然と行なうことが可能であって、荷崩れのおそれが少ない。

【0027】物品の押脱口は扁平な空気の供給管から成る蓋片により覆閉できるので、収容物が逸出するおそれがなく、且つ包装体の外面側が平らに保持できることと相俟って、包装体の表面にアドレス等を容易に記入して包装体のまゝで郵送配達できる。

【0028】各区画密封用袋は逆止弁を介して各別に空気を充填封入されるように構成されているので、或る区画密封用袋が破損して封入空気が洩出しても、他の区画密封用袋には全く影響を及ぼすことがないので、緩衝効果を失うことがないといった公知の効果を併有している。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施例において基材として使用する緩衝用包装材の平面図である。

【図 2】図 1 の A-A 線に沿う一部の簡略縦断面図である。

【図 3】図 2 に示す区画密封用袋内に空気を充填した状態における簡略縦断面図である。

【図 4】本発明の一実施例を示す正面図である。

【図 5】図 4 の 1 部を切欠した正面図である。

【図 6】図 4 に示す袋体の各区画密封用袋内に空気を充填封入した状態における斜視図である。

【図 7】図 6 の中央部を縦断した簡略拡大端面図である。

【図 8】図 6 の中央部を横断した簡略拡大端面図である。

【図 9】本発明の他の実施例を示すもので、袋体の各区画密封用袋内に空気を充填封入した状態における中央部を縦断した簡略拡大端面図である。

【図 10】図 9 の中央部を横断した簡略端面図である。

【図 11】本発明の今一つの他の実施例を示すもので、袋体の各区画密封用袋内に空気を充填封入した状態における中央部を縦断した簡略拡大端面図である。

【図 12】図 11 の中央部を横断した簡略端面図である。

【符号の説明】

1 扁平な空気の供給管

1 a 蓋片

2 密封用袋本体

3 区画密封用袋

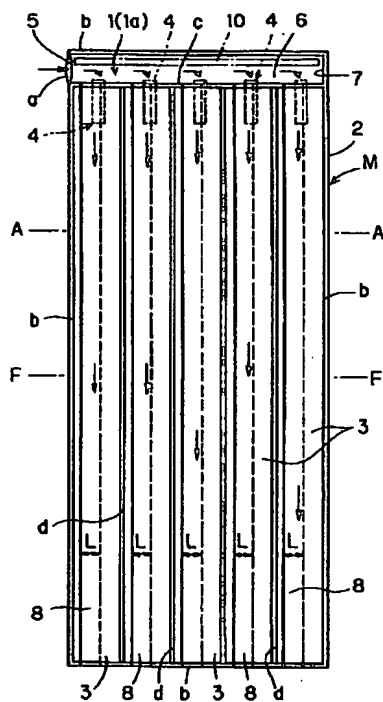
4 逆止弁

5 空気の供給口

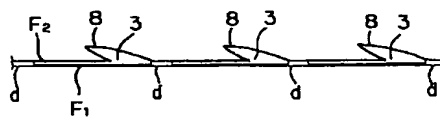
- 6 空気の流路
- 7 閉塞部
- 8 余裕巾部
- 9 物品の挿脱口
- 9a 物品の収容部
- 10 接着剤層
- 11 離形紙
- 12 プラスチックフィルム製内袋
- 13 可筆記性の被覆材
- 14 空間部

- * M 包装用緩衝材
- P 袋体
- F₁ 熱可塑性プラスチックフィルム
- F₂ 熱可塑性プラスチックフィルム
- a 無接着部
- b 加熱接着部
- b' 加熱接着部
- c 加熱接着部
- d 区画接着部
- *10 L 長さ

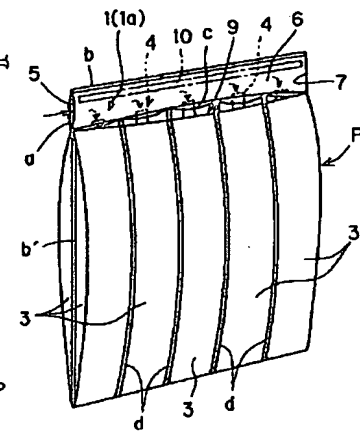
【図1】



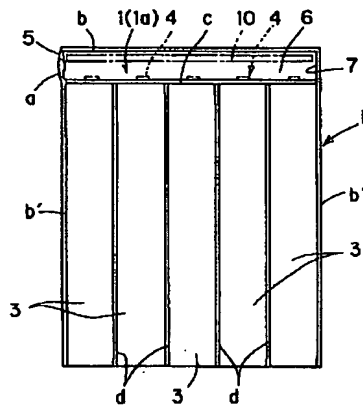
【図2】



【図6】

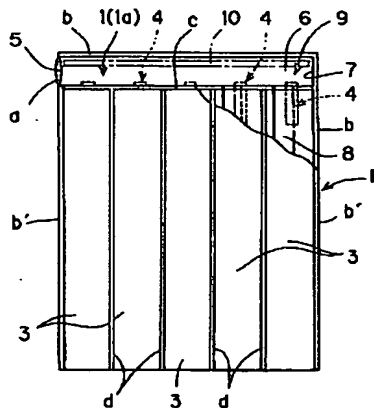
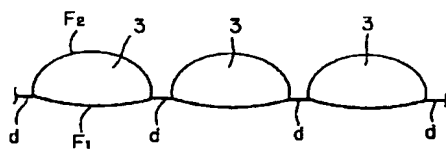


【図4】

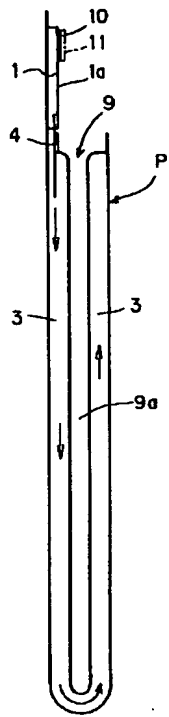


【図5】

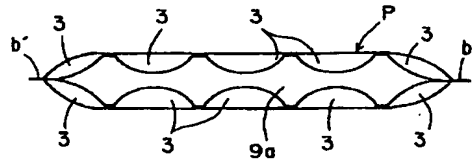
【図3】



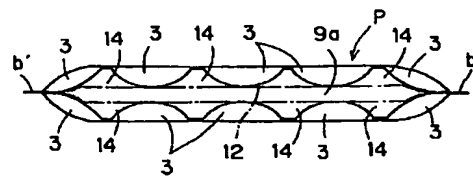
【図7】



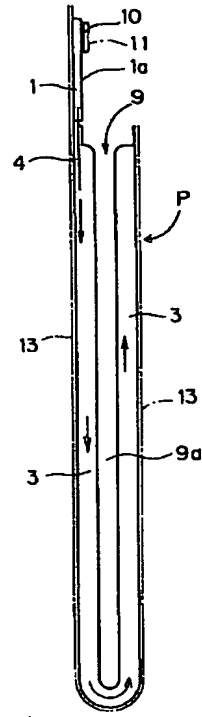
【図8】



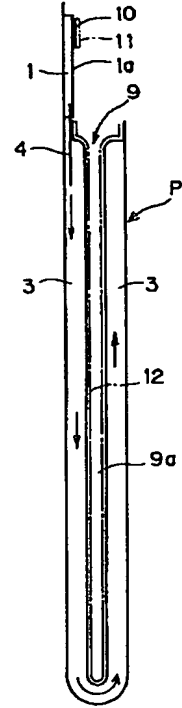
【図12】



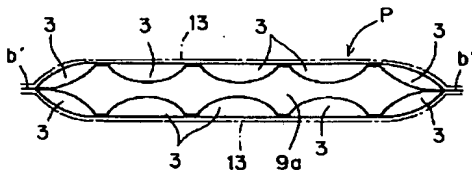
【図9】



【図11】



【図10】



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-285581
 (43)Date of publication of application : 31.10.1995

(51)Int.Cl.:

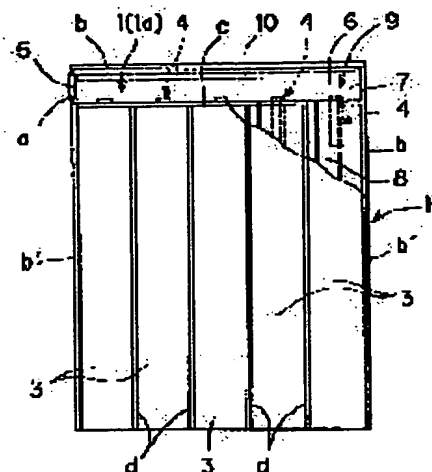
B65D 81/07

(21)Application number : 06-095625 (71)Applicant : KASHIWABARA SEITAI:KK
 (22)Date of filing : 08.04.1994 (72)Inventor : KOYANAGI YOSHITOMO

(54) PACKAGING BAG FOR CUSHIONING**(57)Abstract:**

PURPOSE: To obtain a packaging bag for cushioning, whose bag bodies can be stacked on one another even in the case where air is confined in each bag body, on which a sign and the like can be marked and which holds a cushioning function even in the case where a part of the bag bodies is broken.

CONSTITUTION: A packaging bag for cushioning comprises an air feed tube 1 made of plastic film, having an air feed port 5 at one end of the tube 1, and a bag main body for sealing, communicating with one side edge of the feed tube 1. Divided bags 3 for sealing are provided by bonding the main body at a plurality of places in a direction in which the side edge of the feed tube 1 is crossed. The interior of each divided bag 3 for sealing is made possible to communicate with the interior of the feed tube 1 through a check valve 4, and air fed into the feed tube 1 is introduced inside each divided bag 3 for sealing through each check valve 4 before sealing each bag 3. A marginal width part 8 is provided in each divided bag 3 by forming the length of a width on one face other face side therein, and the longer than that of a width on the other face side therein, and the face on the side having the marginal width part 8 of a packaging material for cushioning is turned inside to fold each divided bag 3 for sealing, thus bonding both the side edges together to constitute a bag body P having an insertion-withdrawable port 9 and using the air feed tube 1 as lid pieces 1a.

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination] 08.04.1994

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2626879

[Date of registration] 18.04.1997

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998, 2003 Japan Patent Office